

梅雨時期を前に大雨による 災害に備えましょう！（その2）

問い合わせ 防災安全課 防災対策係（☎内線519・531）

風水害に備える 梅雨本番、大雨による風水害や 台風要注意

一昨年の7月九州北部豪雨、昨年の7月豪雨（西日本豪雨）や猛烈な台風21号では、甚大な被害が発生したことは記憶に新しいと思いますが、本年もその季節がやってきました。

風水害や台風は、事前の対策次第で被害を小さくすることができます。梅雨本番と台風に向けて家庭・地域ぐるみで日ごろの対策を進めましょう。

●あなたの家は大丈夫？

梅雨の集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨で、7月から梅雨末期にかけて起こります。その予測は困難で土砂崩れ・崖崩れ・河川の氾濫などが発生し、人的被害も出ます。四王寺山沿いの土砂災害特別警戒区域や警戒区域、その周辺にお住まいの人は、気象情報に水想定区域や川沿いの人は、気象情報に注意し「命」を守る対策を取りましよう。

●わが家の安全対策！

大雨情報をキャッチしたら次のような対策をとりましよう。

- ①ラジオやテレビなど気象情報に、くれぐれも注意する。
- ②外出から早く帰宅し、家族に連絡をとり非常に備える。
- ③市や防災関係機関の広報をよく聞いて避難の準備をする。
- ④浸水に備え、家財道具などは2階などの安全な場所へ。
- ⑤停電に備え、懐中電灯・ラジオや予備電池を準備する。
- ⑥食料や飲料水など、数日分を早めに確保しておく。
- ⑦日ごろから非常用持出品を入れたリュックを準備しておく。
- ⑧危険な地域では、いつでも避難できる態勢をとっておく。
- ⑨避難する時は、隣近所に必ず声をかけ一緒に避難する。
- ⑩万が一避難が遅れたら2階以上の高い所に避難する。（山や崖とは反対の方向）



●年々増す自然災害の脅威に備えて

昨年の台風は、29個発生、うち16個接近、5個上陸するなど、発生・接近・上陸ともに平年値を上回りました。このような大雨や台風接近時は防災行政無線や広報車の災害情報や避難情報が聞きとりにくくなります。いざという時に「情報が手に入らない」ようなことにならないよう、市の「災害情報等配信サービス（V-net）」や県の「防災メール・まもるくん」への登録をお願い致します。災害時の情報配信サービスへの登録方法などは、6月号の「広報だざいふ」7ページをチェック！

今後も気候環境の変化により、大雨の発生頻度増加や台風強度の増大など、過去の統計や経験が通用しなくなる事態が生じることも想定されています。日ごろからの安全対策、特に①気象・災害情報の入手 ②非常持出品の準備 ③早めの避難 により、風水害・台風の被害から自分、そして家族の「命」を守りましよう。

最大規模の降雨量24時間（1日）11000mmの 大雨が降ったら

太宰府市豪雨（大雨）災害シミュレーション

太宰府市内で最大規模の降雨量（千年に1度と言われる24時間に1000mm）で発生する災害状況や被害を想定して、警戒から災害発生、復旧までの市、関係機関、市民のみなさんの対応をシミュレーション（仮定したモデルを作成）しました。

近年、想定を超える豪雨災害の発生する可能性が高くなっています。市内における最悪な豪雨災害を想定し、迅速かつ適正に対応するための備えや体制づくりに役立っています。

昨年の7月豪雨で土砂崩れや土砂流出による被害が発生しました。特に被害が大きかった三条二丁目では、山腹に新たな治山ダム2基が増設されます。

また、今後の大規模災害に備えて、市では、対応人員の確保や物資の円滑な確保のため、県外の自治体や民間流通会社と協定を結ぶなど準備を進めています。



■予測される事態（想定）

1時間に80mm以上の猛烈な雨が数時間続く。（記録的短時間大雨情報が複数回発令される。）また、30mm以上の激しい雨が長時間続く。
大規模な土石流の発生が予想される。
川などの増水による浸水被害に加えて、市内各所で冠水が発生する。
短時間で警戒レベル3から警戒レベル5になる可能性が高い。

■行政の対応の流れ

警戒レベル1もしくは2 ⇒ 災害警戒（気象情報の収集、自主避難所：プラム・カルコア太宰府[中央公民館]、とびうめアリーナ[総合体育館] 開設など）
警戒レベル3もしくは4 ⇒ 避難対応（避難情報の発令、避難所開設など）
警戒レベル5 ⇒ 災害発生（災害状況の確認、情報収集、市民の救助、救急など） ※自衛隊など関係機関への協力要請
災害被害の取りまとめ、今後の対応方針の決定
被災者の生活支援 ⇒ 避難の受入れ、支援物資確保、供給など ※物資の集積所の確保、避難所運営の協力、対応人員の確保
応急措置 ⇒ 災害拡大、二次災害の防止など ※災害土砂などの集積場所
被災者の生活再建支援 ⇒ 住宅被害認定調査、罹災証明の発行、被災復旧作業のニーズの取りまとめ、災害ボランティアの受入れ、被災者支援制度などの情報提供、災害廃棄物の処理、仮設住宅確保など ※災害ボランティアセンターの設置場所、災害廃棄物の集積場所、対応人員の確保
道路、河川などの復旧

※印は、太宰府市で決定もしくは準備を進めています。